

(別記様式)

令和 5 年度 府立 朱雀 高等学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>朱雀高校の教育目標・校訓をもとに次のように定める。</p> <p>1 生徒の期待に応える「生徒本位」の学校づくりに教職員全員体制で取り組む。</p> <p>2 生徒に学ぶ主体としての自覚を持たせ、学習に励み、進路を切り拓き、社会で生き抜く力を育てる。</p> <p>3 規範意識を育てて、自らを律し、自主活動を通して他者と協働する力を育む。</p> <p>4 心身ともに健康な生徒の育成と安心・安全な学校づくりを行う。</p> <p>5 開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域との連携を進め、理解と信頼を得る。</p> <p>6 本校全日制に学ぶ生徒が、自らに自信を持ち、明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送るための朱雀プライド計画」を積極的に推進していく。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 「生徒たちが自らに自信と誇りを持って明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送る」ことを目指した朱雀プライド計画 (制服導入・コース制導入・部活動活性化) 第2ステージ「朱雀 Grow Up Project」を推進。「安心して生活できる学校」への変革に一定の成果をあげることができた。</p> <p>(2) 基礎基本の徹底により学習意欲の向上が見られ、4年制大学進学率が学校改革前に比べ1.8倍となり、昨年度からも増加した。</p> <p>(3) 生徒一人一人に丁寧に向き合い、様々な発達課題や障がいのある生徒を、卒業へと導くことができた。</p> <p>(4) コロナ禍の中、学校行事等の実施に様々な制約がある中、文化祭・体育大会を島津アリーナで実施した。また学校外部の人材を活用した探究・協働学習の場を確保することで生徒相互の交流促進、社会性や自主性の育成を図ることができた。</p> <p>(5) 部活動加入率は前年度より増加し約70%になり、複数の部活動が全国大会で活躍するなど、学校の活気向上につながった。</p> <p>課題</p> <p>(1) 各学年、各コースにおいて基礎学力の定着を図る取組を引き続き充実させる。</p> <p>(2) 生徒の希望進路実現に向けた様々な取組をより充実させる。</p> <p>(3) 「朱雀プライド計画」第2ステージを推進し、地域から「高い信頼・期待を持たれる学校」へと更に進化を続ける。</p>	<p>1 活気ある学校づくり</p> <p>(1) 生徒や保護者等・地域の期待に応えるため、教職員は生徒一人一人にしっかりと向き合い、厳しくかつ丁寧で手厚い指導を心掛ける。</p> <p>(2) 教職員間の意思疎通や連絡体制を円滑にし、学校施設や環境の充実整備に努め、活気ある学校づくりを目指す。</p> <p>2 主体的な学びと進路実現</p> <p>(1) ICT機器の活用を推進し、生徒一人一人の能力や適性を踏まえた学習の充実を図るとともに、夢や希望の実現に向けた進路指導を充実させる。</p> <p>(2) 探究学習等の拡充により、生徒の主体的な学びを伸張する学習指導と評価を工夫する。</p> <p>3 自律と自立</p> <p>(1) 身だしなみ指導等、ルールやマナーの意義を考える取組を進め、規範意識を醸成する。</p> <p>(2) 学習活動や特別活動をとおして、自己調整力や粘り強く物事に取り組む態度を養成する。</p> <p>(3) 部活動の活性化を推進し、学校に軸足を置いた学校生活を送ることによる充足感を向上させる。</p> <p>4 健康と安全</p> <p>(1) 健康安全教育を充実させ、自他のいのちを守る安全意識を育成する。</p> <p>(2) 生徒一人一人の個性を尊重し、人を思いやる心を育み、人権意識を育成する。</p> <p>5 地域に開かれた学校づくり</p> <p>(1) コロナ禍の収束状況等も踏まえ、地域と連携した取組をより積極的に推進する。</p> <p>(2) 「朱雀プライド計画」の進行により変化してきた朱雀高校の良さを伝える広報活動をより一層充実させる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	課題の解決に向けた組織的な学校運営体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学校づくりを目指し、校内分掌の役割を明確にすることで学校体制の充実及び活性化を図る。 ICTの効果的活用により迅速かつ適切な情報共有を図る。 課題に即応した柔軟な組織運営を行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度入学生教育課程の改編とそれに伴う学校体制の改善についてコア会議等を中心に分掌・教科の意見を集約しながら検討を進めた。 教職員間の情報共有や意見集約等にクラウドシステムを活用し、効率化を進めた。 各分掌部長間の連携・調整を図ることによって円滑な学校運営につなげた。
	校務組織の見直しによる分掌機能の整理・充実	<ul style="list-style-type: none"> 教職員組織の見直しによる学校運営の充実及び活性化を図る。 効果的校務運営のために分掌機能の整理・充実を図るとともに分掌間の連携を図る。 	C	B	
教務部	学習への意欲を高め、生徒の学力充実・学力保障に努め、全ての生徒の進級・卒業を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 出欠や学習の状況に関するデータや情報を適宜整理し、全体で共有することで、学校生活上や学習上の課題のある生徒に対して教員集団として取り組み、原級留置や進路変更の防止に結びつける。 特にICTを活用した授業及び評価に関する研究授業や研修会を充実させ、教科指導力の向上に努める。 	B	B	
	行事等の整理・精選を行い、効果的な教育活動計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 年間及び各学期といった長期的な展望を持ち、計画的に授業時数の確保に努める。 	A	A	
	校務システムの適切で効果的な運用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 将来を見据え、システムの理解を教員全体で共有できるようにする。 	B	B	
生徒指導部	自主活動を通じた生徒の自立と自治能力を持つ生徒集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会をサポートし、生徒の自主自治の力を育成するとともに、委員会活動の活性化を図る 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭、体育祭ともに数年ぶりの開催であったが、生徒会や各学級のリーダーを中心に試行錯誤しながら取り組むことができた。 生徒会においては、行事や学校説明会の運営を行ったが、自主、自治の力を伸ばすサポートは非常に難しく思えた。 部活動を通して学校生活を充実させることが出来る生徒が一定数増えている。 特別指導件数については、昨年に比べて減少した。学校全体としての落
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒が高校生活の過ごし方について振り返る機会をつくる。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 部活動のさらなる加入率向上を目指す。また、部活動代表者会議等の指導を通してリーダーとしての能力を育てる。 	B		
	生徒の規範意識の醸成。また、落ち着いた学習環境のもと、安全・安心の場をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌・教科と連携を図り、諸課題の早期発見と対応により特別指導事象を未然に防止する。 学校のルールを守る意識を高めるとともに、高校生らしい身だしなみについても考えさせる。 朝の遅刻指導等により、遅刻・欠課を減少させる。 	B	B	
			C		

	生命を大切にすることを育成し、実践させる。	<ul style="list-style-type: none"> 交通ルール遵守の啓発や朝の校門立ち番での交通安全についての声掛けをする。 SNS使用のマナーについて考えさせる機会を設ける。 	B	B	<p>ち着きがみられる。個別の課題・指導事象に対しては、学年・分掌の連携を迅速に取ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導を継続しているが、さらに効果的な改善策を見出したい。 様々な場面でSNS使用に際しての注意喚起を行う必要があり、工夫検討が必要である。
進路指導部	進路を切り拓く力を伸ばし、適切な進路選択ができるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習機会の創出に努め、学力の底上げにつなげる。 生徒への情報提供と進路意識の刺激に努め、進路の早期明確化につなげる。 保護者向けの情報提供に努め、進路選択をサポートする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習強化週間の設定、朱雀2分間チャレンジの実施などにより、学習の機会を創出した。土曜進学講座で高大連携事業を実施し、進路意識を刺激した。 年度の最初と最後にキャリアパスポートに取り組む機会を設定した。自己理解を深め、視野を広げて進路を考えさせることができた。 説明会やLHR資料の提供を通じて社会人としての常識や労働者の権利について指導を行った。
	自己と社会についての認識を深め、豊かな人生が送れるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを活用して人生観や仕事観を深め、幸せな人生が構築できるよう導く。 適性検査を活用して自己の適性を認識させ、視野を広げさせる。 	C	B	
	よりよい社会の構築を目指し、自他の人権を尊重するよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を活用し、社会人として必要な心構えや知識を身につけさせる。 社会に出るにあたり、働く者としての権利と社会への貢献とを意識できるよう指導する。 	B	B	
	健康な心と身体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断や健診結果の通知及び治療勧告の強化を図る。 新型コロナウイルス対応を含めた感染症予防対策に努める。 	A	A	
保健部	学校環境衛生の促進	<ul style="list-style-type: none"> 健康学習の内容を検討し、取組の充実を図る。 大掃除ごとに重点清掃箇所を設け、校内美化を推進する。 ゴミの分別収集の徹底とゴミ袋の効率的な使用について検討する。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 健診結果の通知や治療勧告はできたが、未受診者へ指導には更なる工夫が必要である。 教室の換気を促し「ほけんだより」で感染症予防の啓発を行った。予防対策の自由度が増し、インフルエンザ等の感染症が流行し、学年閉鎖も1回あった。 学年の要望や生徒の実態と社会情勢を踏まえた健康学習が実施できた。 校内美化の推進には、掃除はもちろんゴミの分別やトイレ使用のマナー等、学校全体の意識を高める工夫が一層必要である。 学校に不応を起している生徒や心身に課題を持つ生徒については、教職員での情報共有を図り、担任やスクールカウンセラーとも連携し
	生徒の心の健康への理解と対応	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議を中心に、学校生活に不応を起している生徒の状況把握と情報共有に努め、対策について検討する。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、まなび・生活アドバイザー等と連携し、生徒や教職員のニーズに合った教育相談活動を推進する。 	B	A	

						て対応できた。何らかの課題を抱える生徒の把握に努め、その対応について考えてく必要がある。
企画推進部	総合的な探究の時間の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会や実生活の中から問いを立て、問題発見能力・情報活用能力を育成するとともに、視野を広げ自身の世界観を広げていく土台とする。 ・外部人材等を活用しながら生徒の視野を広げる取組を充実させる。 ・総合的な探究の時間について成果と課題を全教職員で共有し、より質の高い学びを実現する。 	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間においては、講演会等で外部人材などを活用した。 ・1年生では「京都・地域」をテーマにフィールドワークの充実を図り、興味・関心を広げる活動を実施した ・2年生では、「防災」などをテーマに、研修旅行とも関連付けて探究活動を進めた。 ・次年度の総合的な探究の時間に関しては、教科の専門性を活かす形での計画を立案した。 ・学校説明会に関しては、7月末の平日開催を含め、昨年度よりも申込件数を増加させることができた。 ・一方で、説明会の内容や説明会以外の広報活動については、充実に向けた一層の検討が必要である。
	計画的な広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会や学校公開を適切な時期に実施する等、広報活動をさらに充実させる。 	B	B	B	
第1学年部	基本的な生活習慣を確立させると共に、規範意識を醸成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪や服装等、身だしなみ指導に努め、落ち着いた学習環境を確立する。 ・遅刻、欠席を減らし、授業への取り組みを促進する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部と連携を図り、身だしなみ指導や遅刻指導を行い、一定の成果があった。今後も継続した指導が必要である。 ・学校行事や学年行事を通し、協調性や自主性の育成に繋がった。
	自主的活動を通じた協調性と自己尊厳に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動やHR活動に積極的に参加させ、学校への帰属意識を醸成するとともに自己肯定感を高める。 	B	B		
第2学年部	自主活動を通して多面的な成長を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・研修旅行等の自主活動を通して協調性と規範意識を高める。 	B			<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりの学校開催での文化祭への取り組みや、学校最大の行事である研修旅行への取り組み等の自主活動を通して、協調性と規範意識を高めることができた。 ・11月から進路学習に継続的に取り組み、1月の志望理由書作成を通して、自らの進路について考えを深めていくことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自主活動を通して自己の適性を確認し、的確な進路志望の確立とその実現に向け努めるよう指導する。 	A	B	B	
第3学年部	進路目標の明確化と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ・面談等を通じて、生徒の思いに耳を傾け、生徒個々の進路実現に努める。 	A			<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者の補習や模擬試験参加数には課題があったが、面談等を繰り返し、概ね進路実現ができた。 ・学年やクラス内で協力し、学校行事
		<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌と連携し、生徒・保護者への情報の提供を適宜行い、補習や模擬試験への参加を促す。 	B	B	A	

	自尊感情の育成と人権意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 自主活動を通して自尊感情を育てるとともに、他者に対する思いやりの精神を高め、人権意識を高揚させる 	A	A	を成功させることができた。
事務部	学校施設や環境の充実に努め、活気ある学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容や方法の変化に対応できる施設設備の充実に努める。 計画的に老朽施設設備の改修に取り組む。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 空調改修、グランド・教室等照明のLED化、生徒用ロッカーの整備等、施設整備に努めた。 各種支援制度について機会を捉え、周知した。
	生徒の就学を支援するため、適切に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の周知を図るとともに、適切に活用できるよう努める。 	B	B	

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>○朱雀高校の実践している様々な取組や魅力を外部に発信するため、全日制・定時制・通信制の三課程の生徒が交流する場をつくることで特色としてはどうか。</p> <p>○学校全体が落ち着いた環境となっている一方で生徒への個別対応が益々必要になっている現状から、学習方法や評価、生徒への接し方の視点を学び、変化させてゆくことが大切だと思う。</p>
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	<p>○学校全体の落ちたいた雰囲気や学習・学校行事等に集中して取り組む雰囲気が高まる等の成果が見える。学校改革の成果と課題を整理し、さらなる発展に向け、引き続き魅力ある学校づくりに努めること。</p> <p>○生徒個々の特性や学力の違いに応じて個別最適な学びを保障するための教科指導や評価方法について改善を図ること。</p> <p>○生徒の希望進路の実現へ向けて、進路の手引きの有効活用など、計画的・体系的な進路指導の充実に努めること。</p> <p>○広報活動をより工夫するとともに地域・外部との連携や「総合的な探究の時間」の活用を図ることで朱雀高校の取組や良さを積極的に発信すること。</p>
-----------------------	--